

# 令和4年度 研究推進について

## 1 研究テーマ

「心ほっこり ステキに気づく 明日につながる 授業づくり」  
～【価値観を広げる対話】ができる児童の育成を目指して～

## 2 テーマ設定の理由

本校は令和4年度に「道徳教育実践研究事業」の指定を受け、丹南中校区（丹南中学校、大山小学校）で道徳科の研究に取り組んでいくことになっている。

本校の児童は、素直で、思いやりがあり、言われたことに対してまじめに取り組むことができる。また、幼稚園から6年生までメンバーがほぼ変わることなく単学級で過ごすため、児童同士も互いをよく知る間柄であり、思ったことや考えを気軽に言いやすい土壌がある。道徳科の授業においては、教師の発問に対して自分の意見を持ち、発表することができる。「うそをついてはいけない」「友達を大切にする」など何が大切かは答えることができる反面、表面的な正しさのみの発言に留まっているところに課題がある。加えて、思いやりがあるために友達の意見を受け入れようという姿勢が強く、自分の意見と比べて聞き返したり、反論したりしない傾向があるため、考えがつながったり深まったりしにくい。また、教師と児童のやりとりはできるが、児童同士の対話に発展することが難しいという課題がある。他にも、学習したことが実際の生活につながるように児童の内面に落とし込むことや評価の書き方についても難しさも感じているところである。

このような課題を踏まえて、現状の表面的・一面的な見方から、言動の背景にある心情や葛藤など多面的に掘り下げて考える見方ができるようにしていきたい。その際には、児童同士をつなぐ補助発問を投げかけることで、児童同士が対話できるようにしていきたい。対話の中で、より多面的・多角的に考えが深まったり、新しい自分や友達、社会の一面やよさ・素晴らしさを発見したりすることで授業後に心がほっこりするような授業づくり、授業で学んだことがよりよく生きるための力につながるような授業づくりについて授業研究・研修を行い、教師の授業力向上を図るためにテーマを設定した。

この課題に取り組むために、昨年度までの研究で学んできた「対話」「けてぶれ」（PDCAサイクル）を生かして研究を進めていきたい。授業で主体的・対話的に考えることができるように、児童の対話をどのようにコーディネートしていくか、対話の時間をいかに多くしていくか、教師の役割（出場）をどうしていくかについての研究を道徳科においてもいかしていきたいと考える。一部の児童の意見で授業が進んだり、教師主導の流れになったりする授業から、児童の対話から道徳的価値に気づかせたり、迫らせたりする授業にするために、発問や問い返し、教師のコーディネート力、児童の対話や発表の仕方について研究していく。

## 3 研究の内容及び方法

次の2点を柱として授業研究・研修を行い、教師の授業力向上を目指す。また、児童の主体席に対話しようとする意欲や学ぶ喜び、学ぶ姿勢の促進を図る。

### （1）道徳科において「価値観を広げる対話」についての研修・授業研究

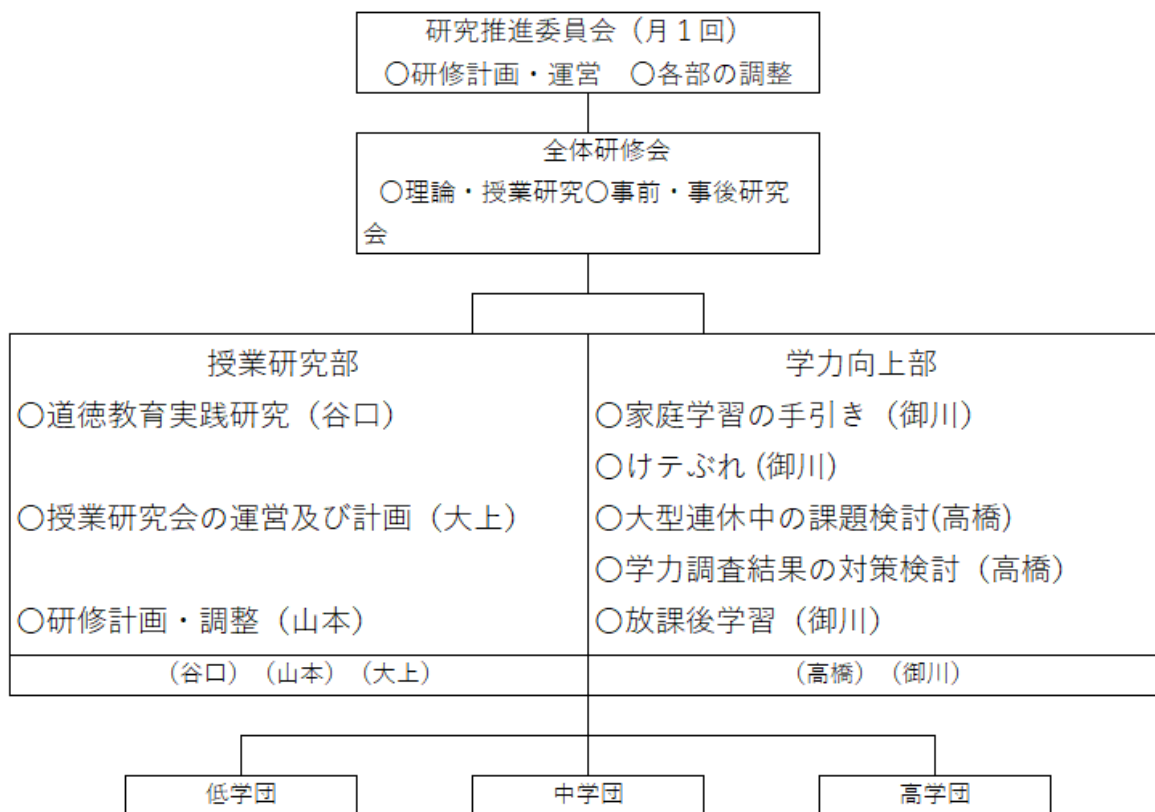
- ①大山っ子につけさせたい力を明確にし、共通理解した上で授業研究を実践する。
- ②対話の仕方や発問・コーディネート力に視点を当てた授業研究を全学年行い、教師の授業力向上を目指す。

(2) 主体性を育む自主学習・家庭学習の見直しと系統化（けてぶれ）

①「けてぶれ」を導入し、全学年を通してのレベルを作成、活用する。

②クラスや他学年、家庭へ発信し、意欲の促進を図る。

#### 4 研究組織



#### 5 年間計画

- ・研修日は月に1回月曜日を基本とする。
- ・夏季研修等については、別途提案する。

#### 6 研究成果の報告について

2月10日（金） 研究発表会